

中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」最終年 自動車分野の成長を見据え拡大戦略を展開中

当社は「日東パワーアッププランⅠ（2009～2011）、
「日東パワーアッププランⅡ（2012～2014）、そして
2015年から「日東パワーアッププランFINAL」
を策定しており、2009年から数えると10年目、最
終年度に当たる2018年は過去最高売上、純利益を
目指しています。そのためには技術力強化、営業
力強化は必要不可欠であり、広島営業所や京都
R&Dセンターなど国内に新拠点を開設。海外で
は韓国支店開設、韓国エンエプ社と資本提携、ア
メリカ現地法人化、マレーシア子会社化など、グ
ローバル展開を一気に加速しています。

そして、事業領域拡大（M&A）も敢行。これ
はファスナー事業を軸に自動車分野での成長を見
据えたものです。当社のファスナー（工業用ね
じ）は自動車分野で既に多数採用されているほか、
ねじ締め機や自動組立の分野（産機事業）、マイ
クロバブル洗浄（制御システム事業）などでも自
動車業界から高く評価をいただいています。

そして今後、軽量化や自動運転などに対して、
当社の技術・製品が更に貢献していくことも間違

いありません。車種にもよりますが、1台に3000
本以上のねじが使われており、小さなねじでも、
1本1本、その重量の積み重ねが車の重量に影響、
コストや環境面にも関わってきます。

自動車の重要保安部品については、これまでは
安全上の配慮から、セルフタッピンねじ（めねじ
加工＝ナットが不要）の採用には慎重な姿勢が示
されてきましたが、当社では安全上の懸念をクリ
アーしています。また海外では既にセルフタッピ
ンねじが採用されていることから、国際競争とい
う観点に立てば、近い将来、当社のねじが自動車
業界の締結をがらりと変えていくであろうことが
充分に予測できます。

9月5日～7日「第1回名古屋クルマの軽量化技
術展」にも出展し、当社の強みを訴求する予定で
すが、こういった自動車分野での成長のための布
石のひとつがM&Aです。

既にこのニュースレターでもご紹介してしまし
ましたが、これまでの当社のM&Aについて一覧にし
てみました。

協栄製作所（奈良）	インドネシア	伸和精工（長野）	サンロックオーヨド（大阪）
太物ファスナー	第2工場	プレス・金型	ファスナー事業
太物ボルトM6～M24を製造・ 販売、自社伸線に強みをも つ協栄製作所を2016年10月 に子会社化。これにより精 密ねじから太物ボルトまで 守備範囲を広げることが可 能となる。	現地メーカー「PT.ISOGAI INDONESIA」の事業（一部） を2018年1月に譲受。自動 車専用の第2工場を建設し、 インドネシアでの生産能力・ 売上拡大が見込まれる。	伸和精工は精密プレス部 品・金型を製造販売。2018 年5月に子会社化。今後は、 ねじ+プレス品の複合化部 品の展開とグローバル供給 体制の確立を目指す。	メタルワンの子会社である同 社のファスナー事業を協栄 製作所が譲受（2018年11月 事業譲渡予定）。得意とする 自動車向け製品の供給能力 が拡大。

当社はリーマンショックや大規模な自然災害にも対応し、営業利益は23年連続で黒字を継続中です。これは堅実に経営を進めてきた証ではありますが、守ってばかりでなく、常にマーケットにアンテナを張り巡らせ、お客様のニーズにお応えしようとしてきたこと（お客様満足度120%を目指していたこと）、常にチャレンジする姿勢をもち続けてきたことでもあります。これからも日東精工をよろしくお願いいたします。

「日東テクニカルレポート2018」には、 今後の「可能性」が凝縮されています

企業にとって成長のエンジンは技術力・開発力です。

当社研究開発部はファスナー、産機、制御システムの戦略をサポートし、今ある製品のブラッシュアップに貢献しています。そして、さらに大切なミッションが、事業部の枠を超え社としての5年、10年後、あるいはその先を見据えた技術開発です。当社『人生の「ねじ」を巻く77の教え』でいえば、41番「明日に花咲くつぼみを育てよ」新規開発を意識する」といえるでしょう。

実際、当社にはたくさんのつぼみがあり、毎年7月に「日東テクニカルレポート」で研究・開発の成果の一部を公開しています。ここでは直近の78号で紹介した研究テーマと担当者を記しますので、ご興味をいただいた方は各所にお問合せください。

★高周波信号処理技術開発—波形自動分類—（研究開発部 林喜弘）

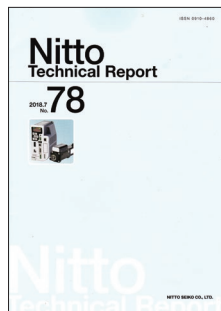
★セルフタッピンねじTAPTITE2000®の塗付剤併用ねじ込み性能

（ファスナー事業部 六渡秀鷹）

★NXドライバT3シリーズの開発—ギヤユニットのトルク伝達精度向上—

（産機事業部 寺井俊朗）

★プロセスコントローラBC100の開発（制御システム事業部 高井英之）

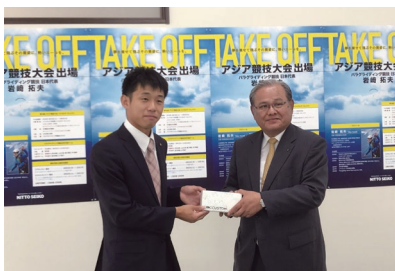


パラグライダーで世界一を目指せ 当社社員が日本代表に選ばれました

2年前のニュースレターで、スポーツ分野で活躍している日東精工社員・関係者を特集。そのなかで、当社産機事業部の岩崎拓夫がパラグライダーの第一人者であるとは紹介しましたが、さらに技術に磨きをかけ2017年度の日本ランキング（JHF）では1位を獲得しています。そして日本代表に選出され、本年8月18日からインドネシアで開催される「第18回アジア競技大会」への出場が決定しました。

「パラグライダーは集中力の持続が重要。そして風速や風向きなど瞬時の修正力が試され、世界の強豪に対峙することでメンタルも鍛えられ、それが仕事にもプラスになっている」

と岩崎。「世界で活躍できる選手がいることは社の、そして地元の誇り」と当社代表取締役社長材木正己。当社では懸垂幕を設置、ポスター掲示、激励会を実施し全社を挙げて応援ムードを高めています。アジアでも、そして世界でもナンバーワンとなるよう、今後もサポートしてまいります。



7月25日の激励会で記念品を授与。
地元メディアの取材も受けました。
メダルの期待を込めて材木社長のネクタイは「金」。



兵庫ものづくり支援センター但馬 開設記念イベントで当社社長が講演

兵庫県北部但馬地域における、モノづくり企業の技術向上やオンリーワン企業の育成に取り組む「兵庫ものづくり支援センター但馬」がオープンしました。先端機器の操作講習などのノウハウが学べるだけでなく、コーディネーターのもつ人的ネットワークや関連業界の情報をマッチングさせるものです。

7月4日の開設記念イベントに当社代表取締役社長材木正己がお招きいただき講演を行いました。日東精工が常に付加価値の高い新しい製品をつくり続けていることをアピール。そして常に「お客様満足度120%」を目指している当社の理念などをご紹介しました。



リケジョ 理系女フォーラムで 日東精工の魅力をアピール!

京都府ならびに京都経営者協会主催の京都のリケジョ応援プログラム「高校生のためのフューチャーフォーラム」が7月27日に舞鶴市西駅交流センターで開催され、当社からは、研究開発部の山下恵梨佳と産機事業部の畠中悠子に参加し講師を務めました。ロボットをつくりたいという夢を実現してきたことなど、リケジョ（理系女子研究者、技術者）のやりがいや日東精工という会社の魅力を説明しました。



講師を務めた山下(右)と畠中/
京都府内の高校生が参加

当社人財教育本の印税で 綾部市図書館に児童書を寄贈

当社の人財教育を一般向けにまとめた『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）の実売印税をもとに児童書100冊を購入し、綾部市図書館に寄贈しました。

本年度4回目を迎えた7月21日の寄贈式にはポプラ社から奥村傳相談役にもご出席いただき、奥村相談役のご長男でステンドグラス作家の奥村和之氏のあやべを題材にした作品も併せて寄贈されました。



(上)今回寄贈された児童書は早速貸し出された／(下)子どもたちや高校生ボランティアも一緒にアットホームな寄贈式。中央はステンドグラス作品



80周年記念事業として 「グローバルQC・改善発表会」

当社は創立80周年を迎え、さらなる飛躍を目指しています。そのためにも足元をしっかりと見つめ直すことが肝要で、今秋11月5日・6日に「グローバルQC・改善発表会」を企画しています。

台湾、中国、インドネシア、タイ、マレーシアの海外現地法人5社の選抜メンバーが日東精工本社に出向き、それぞれに発表を行います。QC改善活動の情報交換により、さらなる品質向上、原価低減、ムダを取り、あるいは個々のスキルアップにもつなげることを目的にするものです。同時に、同じテーマで年間を通じて取り組める行事を設けることで、グループ一体感の醸成を図っていくものです。

この新しい活動を通して、当社の企業価値向上、そしてお客様満足度120%を目指しています。

その他の当社CSR活動として8月2日、3日に開催された「夏休み2018 宿題・自由研究大作戦！」に出席しました。こちらは次号でご報告の予定です。



「一点突破・全面展開」、問題解決のための第一歩

日

東精工が本社をおく京都府綾部市の前市長、

四方八洲男さんは、3期12年にわたり市長を務められた後、大相撲の京都場所や綾部場所の勧進元をされたり、地域の人財ネットワークを目的にした「北近畿みらい塾」を主宰されたり、78歳の今も現役で活躍されています。

つい先日も塾生70名を当社にご案内いただき、工場見学や勉強会を主催いただきました。四方さんは常々「大事なのは情熱と志」とおっしゃり、お話をうかがっているだけで、こちらにもパワーをもらいます。

☆

四方さんがされてきたことのひとつに「中東和平プロジェクト」があります。綾部市は戦後、日本で最初に「世界連邦都市宣言」をした市で、「世界連邦都市宣言協議会」の窓口でもあります。けれど、何十年と経てば形骸化していきます。四方さんはこ

れを見直し「イスラエルとパレスチナの戦争遺児を日本に招待し交流させ憎しみの連鎖を断つ」という「中東和平プロジェクト」を成功に導かれたのです。

当初は「素晴らしい話だと思うが実現は無理」と大使館や外務省から相手にされなかったのですが、実現に漕ぎつけたのですが、実現に漕ぎつけた、当時の小泉首相が大感激また、のちに麻生首相がこのプロジェクトのことを国連でスピーチされ、今は外務省のホームページにも掲載されているなど継続されています。

☆

「やれることしか口にしない、口にしたら絶対やり遂げる」、その秘訣・ベースにあるのは「一点突破・全面展開」という考え方です。もともとは得意分野を最大限生かすという孫氏の兵法で、まずは小さな成功を勝ち取る、その成功をベースに迅速に目的を達成するというものです。当社

連載⑧

あやべ ちょっと寄り道

筆供養と萩まつり 岩王寺

「供養」というのは人間だけが行う人間らしい行為だそうです。そして人、動物だけでなく、モノ（道具）までも供養するのが日本人。針供養、人形供養、箸供養……、モノを大事にし、その役目を果たしたものに想いを馳せるということは大事なことです。

綾部の岩王寺は日本三筆といわれた嵯峨天皇ゆかりのお寺で、とくにかつて当地で産出された硯は名品の誉れが高いのです。ここで毎年9月に「筆供養」が行われ使わなくなった筆や硯を供養しています。スマホやPC全盛で、文字を書くというより打つことが多い時代ですが、やはり「美しい字」を心がけたいもの。萩の名所でもあるので、これからの季節、ぜひ足をお運びください。

の『人生の「ねじ」を巻く77の教え』でいえば40番の「ペタイズ ベスト」問題解決の第一歩」や44番の「プライドを負けてたまるかと訳しておこう」、21番「一つ変われば、二つ、三つと変わっていく」。51番「惚れ込んでこそ一流になれる」に通じるものですね。常に挑戦し続ける四方前市長の姿勢を見習いたいと思います。戦略を単なるキャッチフレーズにするのではなく、スピードをもって実行していきたいと思っています。



「2011中東和平プロジェクトin綾部」で綾部高校の生徒と太鼓で交流／プロジェクトは現在も続き、その一環として、2018年にイスラエル市長とイスラエル市庁舎で面会する山崎善也綾部市長